

朝日村観光ビジョン

Ver.1



2021 → 2024

目次

第1章 観光ビジョンについて

- 1 観光ビジョン策定の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 観光ビジョンの位置付け（第6次総合計画との位置付け）・・・・・・ 1
- 3 観光ビジョンの期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章 観光を取り巻く現状と課題

- 1 村の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 観光入込・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 村の観光における課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第3章 朝日村の観光資源

- 1 観光的資源から見る朝日村
 - (1) 豊かな自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 歴史文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (3) 産業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (4) 観光施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (5) その他の資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第4章 朝日村の観光の基本的な考え方（朝日村観光ビジョン体系）

- 1 朝日村の目指す観光・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2 観光ビジョン推進による目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 観光ビジョンの基本戦略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第5章 朝日村における観光の基本戦略

- 戦略1 新たな発想による魅力の形成と発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 基本方針1 新たな発想による観光素材の発掘と活用・・・・・・・・・・ 11
 - 基本方針2 朝日村独自の観光づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 基本方針3 きめ細やかな観光情報の発信・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 戦略2 既存観光施設の有効活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 基本方針4 朝日村の観光施設方向付けの明確化・・・・・・・・・・ 14
- 推進組織の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 基本方針5 朝日村の観光をコーディネートする組織づくり・・・・ 17
 - 基本方針6 朝日村の観光を支える人づくり・・・・・・・・・・・・・・ 19

附属資料 朝日村観光資源一覧

第1章 観光ビジョンについて

1 観光ビジョン策定の背景

朝日村は、自然豊かで、また松本市・塩尻市の中心街から30分以内という立地にも恵まれています。

しかし、昔からの街道、歴史文化資源、風光明媚な景色、温泉施設等が少ないため、旅館業や観光業を生業とする産業が発達しにくい環境にあります。

そのため、村・企業・団体・個人等が連携し「観光」について、継続した検討を行うことがこれまでありませんでした。

村は、「朝日村における観光はどうあるべきか」を示す指針が無い中、30年ほど前に各観光関連施設を竣工しましたが、年々利用者が減少し、また施設の老朽化対策や改修が必要な時期を迎えており、課題となっています。

そこで、朝日村公共施設個別施設計画と併せて今後の朝日村観光ビジョンを制定することにより、第6次総合計画における観光施策の明確化と各施設を方向づける拠り所を定めることを目的とします。

2 観光ビジョンの位置付け（第6次総合計画との位置付け）

朝日村は、令和2年3月に「朝日村第6次総合計画」を策定し、村の行く先10年を示す羅針盤としました。「基本戦略1 魅力にあふれ暮らしたくなる村をつくります」の章での、「重点目標2 誰もが暮らしたくなる環境づくり」の項では、「主要施策2 村の魅力に触れてもらい、移住へつなげる観光施策を推進します」と、村の姿勢を定めています。

今後の方向性として、『豊かな自然環境や農産物、観光レクリエーション施設等、あらゆる地域資源を活用した観光事業を行い、村の活性化や交流人口の増加、本村への移住・定住へつなげます。また、観光振興のためのPRや村外に対する情報発信、人材育成、朝日村観光協会や関係組織等との連携の強化を図ります。』としています。

これらを踏まえて、朝日村の自慢できる自然、歴史文化、むらづくりなどを考慮し、これからの観光振興の新たな目標を定め、方向性を示すものが、観光ビジョンです。

3 観光ビジョンの期間

本ビジョンは、令和3年度から令和6年度までの4年間を対象期間とします。なお、近年の観光を取り巻く環境の急速な変化を鑑み、必要に応じて見直しなどを行いながら取組を進めます。

第2章 観光を取り巻く現状と課題

1 村の概要

(1) 地勢

朝日村は本州のほぼ中央、長野県松本平の西南部に位置し、面積は70.62km²、約87%が山林に覆われています。村の中央を流れる鎖川による扇状台地は、標高800m前後に広がり、宅地・農耕地をなしています。本村の人口は令和2年（2020年）4月1日時点で4,538人、1,535世帯です。※1

朝日村は、松本市・塩尻市・山形村と接し、通勤圏であることから兼業農家の増加や新興住宅も増えベッドタウンともなっています。村には国道や鉄道といった他地域に繋がっている主要幹線がない為、人の往来も少なく静かなロケーションとなっています。

(2) 産業

基幹産業は農業で、梓川からの水を利用した灌漑施設の整備により、日本有数の高原野菜の産地となっています。山林の60%はカラマツが占め、多くが伐期を迎えていますが、林業は衰退した状態です。一方で村産材のカラマツ等を利用した家具生産が盛んで、木工作家・工芸家も増え、新たな地場産業として育ちつつあります。

(3) 歴史

朝日村の各地には縄文遺跡が多く発掘され、この地に古くから人が住んでいたことを伝えています。平安時代は洗馬の牧、鎌倉時代は洗馬の庄と呼ばれ、約4000年前から快適な居住地であったことが伺われます。

※1 人口・世帯の数値は、村住民基本台帳より引用

2 観光入込

これまで朝日村の観光を考える時、「観光客＝村観光施設の利用者」と捉えてきました。その上で、朝日村の入込観光客数（実人数）を見ると、令和元年度の入込観光客数（実人数）は、約2万8千人です。

また、入込観光客数の推移を見るために平成21年度から令和元年度までを比較すると、近年は約3万人から約3万8千人の中で推移している傾向が見られます。

令和元年度朝日村の主な観光施設の利用者数と収支

（単位：人、円）

施設名		利用者数	収入	支出	収支
村直営	マレットゴルフ場	829	18,288	1,831,848	-1,813,560
	武居城公園茶室	56	4,630	500,830	-496,200
	クラフト体験館	2,076	760,170	3,150,625	-2,390,455
	もくもく体験館	40	2,200	144,320	-142,120
指定管理	野俣沢林間キャンプ場	4,162	11,183,322	20,245,223	-2,728,999
	緑の体験館・コテージ	1,540	4,917,434		
	緑のコロシウム 夏(BBQ) 冬(キッズパーク)	269	1,415,468	51,089,229	68,153,204
		2,216			
	あさひプライムスキー場	15,463			-17,063,975
ゲストハウス「かぜのわ」	558	2,227,145	1,439,993	787,152	
その他	鉢盛山（登山）	667	86,872	10,744	76,128
合計		27,876	71,704,758	95,476,787	-23,772,029

平成20年度～令和元年度 観光施設利用状況

（単位：人）

施設名		H21年度	H24年度	H27年度	H30年度	R1年度	備考
村直営	マレットゴルフ場	922	1,239	1,056	1,007	829	H19年度まで利用料徴収 H20～現在：無料（H24から協力金のお願い）
	武居城公園茶室	62	34	55	42	56	
	クラフト体験館	1,489	2,439	2,460	2,038	2,076	
	もくもく体験館	42	145	106	216	40	H26.8～R1.7指定管理 R1.8～村直営
指定管理	野俣沢林間キャンプ場	1,926	2,701	4,000	4,949	4,162	宿泊割合は、H29までは約60%で推移していたが、H30は、87%と宿泊者が多くを占めた。
	緑の体験館・コテージ			1,038	1,487	1,540	H26.12～営業開始
	緑のコロシウム 夏(BBQ他) 冬(キッズパーク)	2,556	1,100	504	269	269	
				3,199	4,610	2,216	H26～営業開始
	あさひプライムスキー場	22,201	26,578	20,954	19,650	15,463	例年12月中旬～3月上旬まで営業
ゲストハウス「かぜのわ」					558	R1.6～営業開始	
その他	鉢盛山（登山）			880	178	667	H26～一般登山者入山可 H30は、登山マラソン参加者のみ
合計		29,198	34,236	34,252	34,446	27,876	

※緑のコロシウム夏（BBQ他）の「他」には、平成21年度～30年度の間、バーベキュー以外にインラインホッケー等の利用があったため、これらの利用者も含めた数字となっています。

3 村の観光における課題

これまで朝日村は、松本市や塩尻市等、地方の中核的都市に隣接しているという交通の便の良さや親しみやすい自然があることから、身近なレクリエーションの場となってきました。現在もあさひプライムスキー場や野俣沢林間キャンプ場等に毎年多くの観光客が訪れています。

しかし、これらの観光施設や鉢盛山を訪れる観光客の多くが、目的地として訪れる場所以外に立ち寄ることが少なく、また地域や住民とほとんど関わりを持つことなく帰ってしまうため、村が観光を推進する明確なメリットが見えにくくなっています。



緑の体験館コテージ



あさひプライムスキー場

第3章 朝日村の観光資源

1 観光的資源から見る朝日村

(観光資源の現状と課題)

朝日村の観光資源の今後を考えるために、『ないものねだりの観光はしない』こととして、以下の自然、歴史文化、観光施設といった今ある観光資源を最大限活用します。

(1) 豊かな自然

・鉢盛山と清流鎖川

村の約87%を占める山林には、平坦な高原や越境するような大きな峠はなく、急峻な斜面が多いため観光面での利用が難しいとされてきました。しかし、大小多くの沢の上流には一軒の住居もなく、清らかな水と空気は最大の資源でもあります。

特に野俣沢、中俣沢、檜俣沢の3つの沢が集まる三俣周辺は、浅瀬で深みもなく子どもたちの川遊びには最適であり、また野俣沢林間キャンプ場は、キャンプブームもあって村外から大勢の利用者が訪れています。

村のシンボルでもある鉢盛山は三百名山の一つであり、豊かな自然の佇まいそのものを楽しむ登山客や、近年のトレイルランニング人気による登山マラソンのランナーが訪れ、村のイベントとして定着しつつあります。

(2) 歴史文化

・縄文時代から4000年の営み

この地は縄文時代から約4000年の営みが続いており、縄文遺跡からの出土品は美術館に展示され、竪穴式住居が再現され見学することができます。

・氏神様と道祖神、神社仏閣

明治・大正・昭和と各地域における氏神様やお薬師様のお祭りは賑わい、年一回唯一人が集まる行事でした。今は時代とともに衰退してきましたが、神社・仏閣・道祖神も歴史文化としての観光資源です。

- ・伝統芸能（銭太鼓・あさひ小唄）
- ・寺社（光輪寺・薬師堂、古川寺、道祖神）
- ・各地域のお祭り
- ・木曾義仲関連の史跡（光輪寺、足無し様）
- ・村文化財及び天然記念物等

どの歴史文化施設も、地域住民が行事を行う際の賑わいや、春の桜や秋の紅葉などを撮影にくる写真愛好家にはロケーションが好まれ、一時は賑わいをみせますが、年間を通してこれらの施設を訪れる人は少なく、観光客が訪れる施設には至っていません。

(3) 産業

- ・高原野菜の産地

朝日村の基幹産業は農業であり、レタスをはじめとする葉野菜の生産では全国的にも有数の産地です。これらの農作業ができる環境を活かした農業体験に加えて、松本平を見渡せる広大な野菜畑は撮影スポットとしての一面もあります。

- ・村をPRできる商品開発（お土産）

朝日村をPRする「お土産」として代表的な物には、ねずこ下駄をはじめ、ジュースやジャム、ワイン等の加工品があります。

- ・山の資源

総面積の87%を山林が占める村には、木を活用した木工作家が多く工房を構えています。戦後の植林で植えられた「村産カラマツのブランド化」や、木に親しむための「グリーンウッドワーク」等、近年木工作家が連携して事業に取り組む活動の広がりは、今後の新しい産業に繋がる可能性があります。

- ・食としての産業

朝日村の食に関する産業として、地域の特色を活かした信州蕎麦や川魚の山女魚をはじめとする飲食業があります。近年は日本酒やワインの製造、また朝日村の食材を使った飲食店やマルシェ等が村内外に開業するなど、新たな動きがあります。

(4) 観光施設

集客の中心としての観光施設は、あさひプライムスキー場をはじめ、野俣沢林間キャンプ場、緑の体験館コテージなどです。

高度成長期の真ただ中であつた約30数年前、人々にゆとりが芽生え始め、余暇を楽しむ・文化的な事を楽しむ・スポーツを楽しむといった観光需要が広がりました。観光施設竣工当時の第3次総合計画では、観光が村づくりに必要との意向が6割の村民から得られ、村外からの観光客だけでなく、むしろ村民の憩いの場としてのリゾート施設計画として、ふるさとづくり事業、辺地債事業などの国の補助金を活用して集客施設をつくりました。

しかし、時代と共にブームは去り、更なる趣味等の多様化により村民や村外観光客の客足が遠のく一方、経年劣化は進み、全ての施設が老朽化を迎えています。10年前にも利用者数の減少等が課題視されましたが、大きな方向づけはなされないまま現在に至り、施設のあり方を含め、存続の判断を迫られる現状です。

再度、数ある観光施設の現状把握をし、施設ごと今後どのようにしていく事がベターか方向付けをする時期となっています。

その他、借地代は当時と変わらず、占める割合も大きく課題です。収支的には全ての施設が大きく赤字の状態である為、この状態が村民に有益な施設として継続できるか再評価も必要となります。

そのためには、老朽化した施設について、大型投資が必要となる場合、今後の見通し（利用者数・維持経費・投資額）を精査し、継続又は廃止の方向性を検討します。

- ・体験施設（野俣沢林間キャンプ場、クラフト体験館、もくもく体験館）
- ・スポーツ施設（あさひプライムスキー場、マレットゴルフ場、緑のコロシアム）
- ・文化施設（武居城公園茶室（鳥飼の清水休憩所））
- ・宿泊施設（緑の体験館・コテージ、ゲストハウスかぜのわ）
- ・その他の施設（屋外調理施設）

(5) その他の資源

観光資源となる素材が村内には数多くありますが、それぞれが個別に整理され、連携した活用が図られていないのが実情です。組み合わせを広く捉え、村の資源として位置付けていきます。

〈資源として活用していく具体例〉

- ・松本山雅FCホームタウン
- ・福祉施設（子育て支援センターわくわく館、かたくりの里えべや）
- ・農業・林業施設（三俣森林公園作業棟、林業後継者活動拠点施設、かたろう舎、大道・針尾加工所）
- ・スポーツ施設（トレーニングセンター、グラウンド、テニスコート、ゲートボール場、アイススケート場（夏場はローラースケート場））
- ・文化施設（朝日村図書館、朝日美術館・歴史民俗資料館、朝日村天文台「星の丘」）
- ・その他の施設（マルチメディアセンター、健康センター、中央公民館）
- ・各飲食店、商店
- ・民間宿泊施設（間登男の湯）

また近年、「僻地（へきち）であること」「人が密集していないこと」等、これまではデメリットとして捉えてきたことについて、その土地の持つ資源（強み）・魅力とする考え方もあります。

第4章 朝日村の観光の基本的な考え方（朝日村観光ビジョン体系）

1 朝日村の目指す観光

朝日村には生業観光はありませんが、自然や食、歴史的背景や充実した体験型観光施設等、磨けば魅力あふれる観光につながる資源があります。これらの資源を活かし、見て、ふれてみたいと思う人々を増やしていくことが必要です。

そのためにはまず、今、朝日村に暮らしている一人ひとりが「朝日村」の魅力を再認識し、その上で、誇りと愛着をもって日々を暮らせることが大切です。

しかし、観光によるむらづくりの取り組みは、行政や観光協会が施策を展開することだけで成し得るものではありません。村民とともに取り組んでいくことで、はじめて実現可能なものとなります。

全村民が、朝日村の魅力に気づき、楽しく暮らしていくことがやがて村民の誇りとなり、自信をもって朝日村を全国にPRしていくことにつながります。

また、その魅力を求めて村を訪れる観光客との交流が、さらなるPR効果を生み、朝日村の知名度やイメージ向上へ醸成されていくことが期待されます。

◎朝日村の目指す観光

「村民が村の資源・魅力に誇りをもち 住んで楽しいむらづくり」

2 観光ビジョン推進による目標

観光ビジョンへの取り組みにより、次の2点を目標として実施します。

【目標 1】村への移住人口の増加

様々な体験プログラムを準備することで、村の生活や産業にふれていただき、長く村に滞在することで消費活動につなげる滞在型観光を行うと共に、村への移住人口の増加を図ります。

【目標 2】収支重視型から村民福祉向上型へ

全ての施設を住民福祉の向上と、朝日村の魅力発信のツールと捉えます。しかし、このどちらにも結びつかないと判断する施設については廃止を含めて検討します。

3 観光ビジョンの基本戦略

朝日村の観光は、「新たな発想による魅力の形成と発信」と「既存観光施設の有効活用」を基本戦略とし、これらを推進する組織の充実などとともに進めていく中で、「村民が村の資源・魅力に誇りをもち、住んで楽しいむらづくり」を目指します。

朝日村の目指す観光

朝日村観光ビジョン体系

目標1 村への移住人口の増加

目標2 収支重視型から村民福祉向上型へ

戦略1 新たな発想による魅力の形成と発信

基本方針1 新たな発想による観光素材の発掘と活用

- 基本施策
- ①新たな発想による観光素材の発掘
 - ②既存の観光素材の魅力向上

基本方針2 朝日村独自の観光づくり

- 基本施策
- ①村の生活・文化・産業を活かした観光の推進
 - ②滞在型観光プランの開発

基本方針3 きめ細やかな観光情報の発信

- 基本施策
- ①情報提供の充実
 - ②情報発信の拠点

戦略2 既存観光施設の有効活用

基本方針4 朝日村の観光施設方向付け明確化

- 基本施策
- ①各観光施設の適正な運営・管理と今後の方向付け

推進組織の充実

基本方針5 朝日村の観光をコーディネートする組織づくり

- 基本施策
- ①観光協会の機能体制の充実
 - ②近隣自治体や関係機関との連携強化

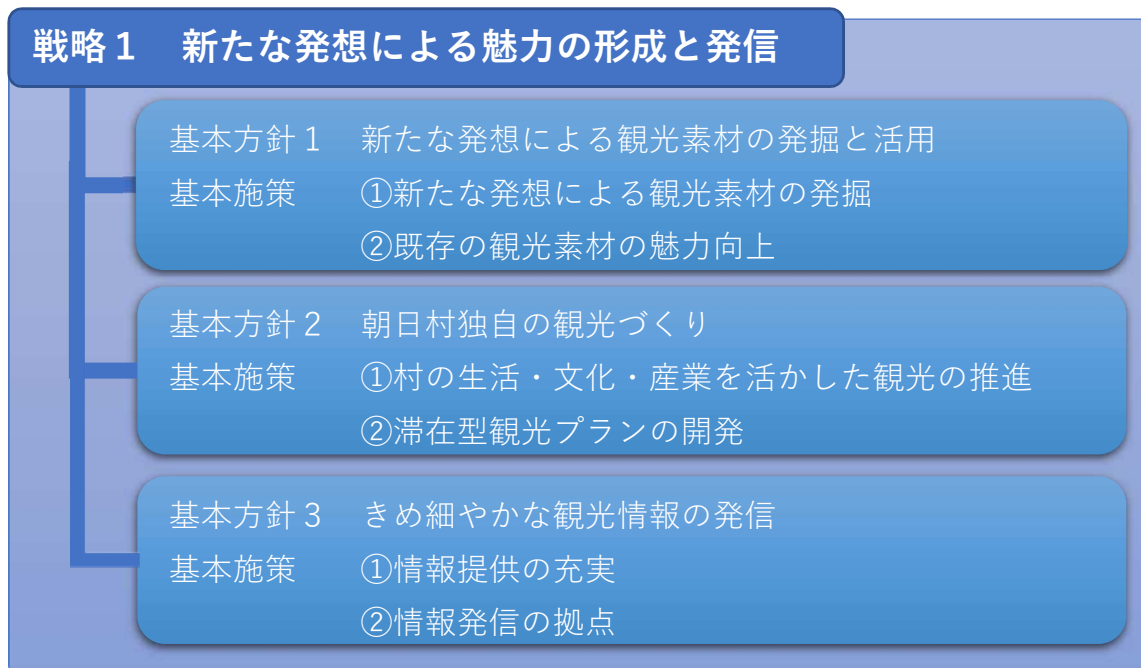
基本方針6 朝日村の観光を支える人づくり

- 基本施策
- ①村民意識の高揚
 - ②観光村づくりリーダーの育成

第5章 朝日村における観光の基本戦略

朝日村における観光の現状と課題を踏まえ、朝日村観光ビジョンの目指す観光と、目標の達成に向けては、潜在する新たな魅力の再発見や魅力を効果的に高める既存観光施設の有効活用を進めていく必要があります。これらを踏まえ、朝日村における観光の進むべき基本戦略を次のように設定します。

戦略1 新たな発想による魅力の形成と発信



村の産業である農業体験や木工体験、村の特徴的な伝統文化や生活様式、祭事や歴史を生かした取り組みなど、あらゆるものを「観光の素材」として発掘し、活用していく必要があります。

このためには、提供する村民が誇りを持って「観光の素材」を活かし、地域の価値を高められるような取り組みを進める必要があります。そのことが来村者に対して魅力（楽しさ、経験した価値、満足感等）を提供することにつながると考えます。

基本方針1 新たな発想による観光素材の発掘と活用

これまで観光資源としては捉えられていなかった新たな発想による観光素材の発掘とその活用を村民参加で実践し、朝日村の観光を支える新たな観光資源としていきます。特に、第3章に明記した数多くの観光資源を組み合わせ、有効活用します。

また、村民や団体等が開催するイベントや発掘した素材を魅力ある観光資源としていくため、地域等がアイデアを出し合って検討していくための支援を行います。

- 基本施策
- ① 新たな発想による観光素材の発掘
 - ② 既存の観光素材の魅力向上

具体例（参考）



道祖神・蕎麦ツアー



文化財ツアー



地域食材を活用した料理教室



鉢盛山 整備+登山ツアー



観光資源の有効活用

基本方針2 朝日村独自の観光づくり

古の時代よりこの地に住み続け、先人達が培ってきた村の生活や文化、加えて、新たに多くの木工作家による家具製作の取り組みなど、地域住民〈土〉と新たな魅力〈風〉が重なった中で体験・体感できる、独自の風土を活かした観光づくりを推進します。

- 基本施策
- ① 村の生活・文化・産業を活かした観光の推進
 - ② 滞在型観光プランの開発

具体例（参考）



グリーンツーリズム



グリーンウッドワーキング



ウィンタースポーツ満喫ツアー



ゲストハウス宿泊

基本方針3 きめ細やかな観光情報の発信

朝日村に訪れてもらうため、また、訪れたときに村で有意義な時間を過ごしてもらうためには、朝日村の観光等に関する様々な情報を提供し知ってもらうことが大切です。

そのため、朝日村の観光情報をホームページやパンフレットなどで広く提供したり、その内容を充実させるとともに、朝日村を訪れた方が必要な情報を的確に知ることが出来る場を設けるなど、きめ細やかな観光情報を提供します。

基本施策 ① 情報提供の充実

② 情報発信の拠点

具体例（参考）



戦略2 既存観光施設の有効活用

2 既存観光施設の有効活用

基本方針4 朝日村の観光施設方向付け明確化

基本施策 ①各観光施設の適正な運営・管理と今後の方向付け

基本方針4 朝日村の観光施設方向付けの明確化

今回の観光ビジョンでは、既存の観光レクリエーション施設の今後のあり方について精査を行い、方向性を明確化し、適正な運営管理を実施していくことが必要です。特に、老朽化した施設で大型投資が必要となる場合、今後の見通し（利用者数・維持経費・投資額）を精査し、継続又は廃止を今後検討していきます。

また、観光事業に対する経費は、朝日村一般会計予算の中に上限を設けて実施していく予定です。

休眠状態となっている施設を再活性化することを目的に、必要に応じて施設ごとイベント等の業務委託を行い、通年での利用者の増加を目指します。

さらに、村管理施設以外の大型施設は、サービスや運営面で効率的である民間活力を活かした指定管理方式とし、村民にとって福祉向上としての観光施設でもあるため、村民が利用しやすい料金設定を検討すると共に、指定管理者が管理する施設の利用については、村民利用の割安分は村の補助を実施する予定です。

基本施策 ① 各観光施設の適正な運営・管理と今後の方向付け

具体例（参考）



マレットゴルフ場



あさひプライムスキー場

個々の施設の方向付けは、以下の通りです。

【村直営施設】

- ・マレットゴルフ場・・・維持費が多く利用者が少ないため、廃止の検討を進めます。
- ・クラフト体験館・・・滞在型観光につながる木工体験の施設でもあるため、利用者数を増やし、施設を活性化させるイベントを定期的に行い、継続して運営管理していきます。
- ・武居城公園茶室・・・近隣市町村にない「茶室」を有効活用させるため、イベント等の業務委託を進め、継続して管理運営していきます。
- ・もくもく体験館・・・利用者が少ないが、指定管理となっている他の観光レクリエーション施設と連携が図れるため、活用方法の再検討を進めます。但し、活性化が困難な場合は、廃止の検討を進めます。

【指定管理施設】

- ・あさひプライムスキー場・・・指定管理により管理を継続します。但し、大型投資は行いません。
四季を通じて利用される施設となるよう、活用方法の再検討についても指定管理者と連携して検討を行います。
また、指定管理の結果によって、今後の設備投資については改めて検討します。
- ・緑の体験館・コテージ・・・指定管理により管理を継続します。本館の再活用等について検討を行いますが、活性化が困難な場合は、廃止の検討を進めます。
- ・屋外調理施設・・・指定管理により管理を継続します。
- ・緑のコロシアム・・・指定管理により管理を継続します。但し、大型投資は行いません。
利用者数を増やし、施設を活性化させるイベントを定期的に行う予定ですが、活性化が困難な場合は、廃止の検討を進めます。
- ・野俣沢林間キャンプ場・・・指定管理により管理を継続します。幅広い利用者のニーズに応えられるよう、多様な宿泊メニューを設定し、利用者の満足度向上に繋がります。

(上記の5施設について、令和2年10月1日から令和7年3月31日まで指定管理期間)

- ・ゲストハウスかぜのわ . . . 指定管理により管理を継続します。地域住民と観光客との交流の機会を創り、利用者の満足度向上に繋がります。

(上記施設について、令和元年4月1日から令和6年3月31日まで指定管理期間)



推進組織の充実

推進組織の充実

基本方針 5 朝日村の観光をコーディネートする組織づくり

- 基本施策
- ①観光協会の機能体制の充実
 - ②近隣自治体や関係機関との連携強化

基本方針 6 朝日村の観光を支える人づくり

- 基本施策
- ①村民意識の高揚
 - ②観光村づくりリーダーの育成

基本方針 5 朝日村の観光をコーディネートする組織づくり

観光に関する取り組みを進めていくには、村民や団体、事業者、行政、観光協会などの観光に関わる各主体の連携が必要と考えています。特に、観光の目的である交流人口・関係人口の増加策と共に、地場産業育成を図り、観光客が地域にお金を落とす仕組み作りが必要です。

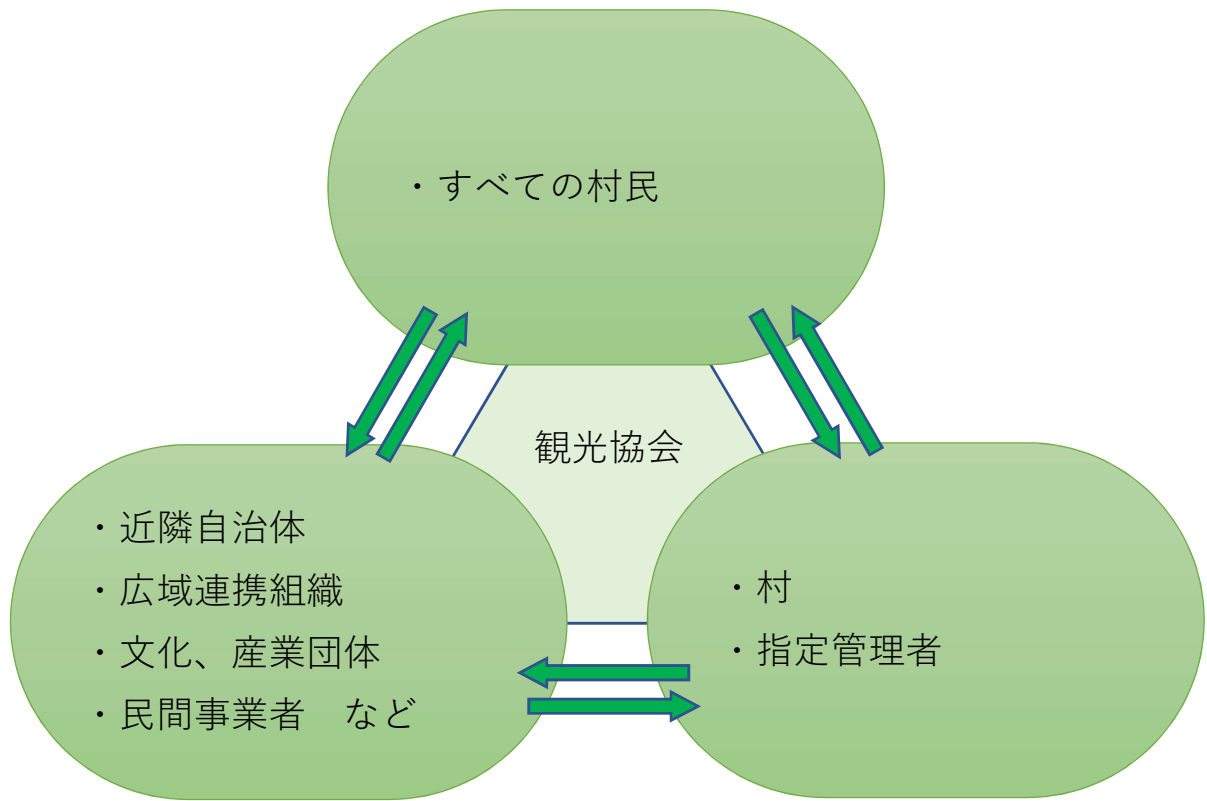
そのため、まずは村の観光をコーディネートしていく観光協会の組織体制を充実させ、村民や各種団体が村の観光資源を知り、活用し、村の魅力として磨き上げていきます。また、指定管理者が管理をしている村観光レクリエーション施設等については、管理者と連携して利用者の増加に取り組みます。

朝日村は、春の花、夏の川遊び、秋の紅葉、冬の自然を活かしたスポーツなど、年間を通して自然の楽しみがあるとともに、村内各地では祭りがあり、郷土芸能があります。また寺社や道祖神、武居城跡など、歴史文化も多彩で、これらのガイドブックの充実も不可欠です。特に年間の花暦、祭りなどのイベントカレンダー、名所の案内マップなど、旬な情報発信を行う必要もあります。

また、朝日村のPRを含めた観光客の誘客に結びつけるため、近隣自治体との広域連携を強化します。松本城や安曇野といった全国的な観光地から、朝日村へも訪れてもらうような仕掛けづくりや、広域で行う物産展やイベント等のPR活動に参加して、朝日村の強みを積極的に発信していくことも、観光協会が担う役割と考え、人員等の体制強化を図っていくことが必要です。

以上のことから、村、観光協会、指定管理者、文化・スポーツ団体、商工会産業関連事業者等、村内各団体が連携していくことが重要です。

- 基本施策 ① 観光協会の機能体制の充実
- ② 近隣自治体や関係機関との連携強化



基本方針6 朝日村の観光を支える人づくり

観光によるむらづくりを進めていくためには、地域の文化や産業等の素材を知りその魅力を磨きあげ、それを来訪者にわかりやすく伝える人材が必要です。

村民一人ひとりが朝日村に自信と誇りを持ち、来訪者をあたたかく迎え、接することが必要です。

村民に村の魅力に関する知識を深める取り組みを行い、朝日村の観光を支える担い手づくりを行います。

- 基本施策
- ① 村民意識の高揚
 - ② 観光村づくりリーダーの育成

具体例（参考）



村民対象ツアー



歴史探検



子どもたちへの継承



文化財等の守り人の継承